

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

「出会い」に思うこと

佐渡市立両津中学校
校長 安藤 博通

小学校6年間で多くの先生方のお世話になりましたが、中でも中川政八（なかがわ まさはち）先生に一番お世話になりました。政八先生（いつもこうお呼びしていました）には5年生の一年間だけ学級担任をしていただきました。この一年間が一番充実していたように思います。今でも政八先生の「人の言うことを最後まで聴く」という態度や姿勢を大事にしようとしています。私が一番楽しかったのは、昼休みのグラウンドでのノックです。忙しい中でバットを持ち我々にノックをしていたことは今でも小学校の一番の思い出です。6年生も政八先生に学級担任をしていただけたと思っていた私が、「ことばの教室」に異動されることを知った時のショックは今でも覚えています。「ああいう先生になってみたいものだ」と思い、自分も先生を志しましたが立派な政八先生の足下にも及びませんでした。政八先生が大きな功績を残された「ことばの教室」を引き継いだ「佐渡ことば・こころの教室」には我が子が3人とも大変お世話になり、親身になって寄り添っていただきました。これも何かの縁と感じます。政八先生との出会いには「感謝」の言葉以外にあてはまる言葉が見つかりません。



「子どもの本音辞書」

子ども若者相談センター
相談センター長 木下 久美子

- ① 「分かってる」 もう、それ以上言わないで
- ② 「うるさい」 心配しないで、苦しいから
- ③ 「別に」 本当はいろいろあるけど、言いたくない
- ④ 「眠い」 現実から離れたい
- ⑤ 「知らない」 考えたくない
- ⑥ 「後でやる」 今は、そっとしておいてほしい
- ⑦ 「なんでもいい」 もう、選ぶ気力もない
- ⑧ 「どうせ私が悪いんでしょ」 もう、これ以上責めないで
- ⑨ 「忘れた」 思い出したくない
- ⑩ 「明日からやる」 今日はもう無理です
- ⑪ 「ほっといて」 話しかけないで、でもそばにいて

双方が苦しく不安になるフレーズで、親子の会話が続かなくなり、「子どもにどう接したらよいかわからない」と悩む保護者の相談が年々増えています。表現が苦手な子どもだけでなく大人も使うことがあり、人間関係や自分の存在の不安定感をより一層、強くしてしまいます。お互いの理解を深めるには相手をよく観察するしかありません。「か」努力の過程をみる「き」共感をする「く」具体的な説明をする「け」傾聴をする「こ」肯定をする

この「かきくけこ」を人づきあいの手段として相手を知れば、自分自身がラクになり、楽しい時間が増えるのではないかと思います。

見えないものでできている

「目に見えるものは ほら 見えないものでできてる」

車中のラジオから、福山雅治さんの歌が聞こえてきました。父親が子どもに、名前に込めた思いを語る曲です。その中で「人の支え」「努力」「気持ち」「経験」等、目立たないものや目には見えないものの大切さが歌われました。日頃の父親の「思いやり」に感謝する子どもの言葉が続き、冒頭の歌詞で終わりました。心がグッと動かされました。

歌をきっかけにして、いろいろなことについて考えました。例えば挨拶です。挨拶という行動は目に見えます。でも、挨拶する側の「ちょっと恥かしいな」「会えてうれしいな」といった「気持ち」は見えません。また、過去に挨拶に関係するどんな「経験」をしてきたかも見えません。やり方を見せてくれたり教えてくれたりといった「人の支え」も見えません。もしかしたら練習といった「努力」をしているかもしれません。一言で「挨拶」と言っても、それは目立たない何か、見えない何かによって成り立っているのです。

実業家のひろゆき氏は、雑談を「空気の循環」に例えました。止まるとよどみ、回すと場が温まるからだそうです。挨拶も似ています。挨拶のやり取りがあると、場が温まる気がします。そこで提案です。相手からの挨拶に、「笑顔」や「より暖かい挨拶」でお返ししてみませんか。そんなさりげないこと、多くの人からは見えないことから「すんてる だれもが ごきげんな しま」に近づくことができると思います。

(中村哲裕)



第1回 判定会議がありました。

10月31日（金）に佐渡ことば・こころの教室「第1回判定会議」が開かれました。保育園、幼稚園、小学校、中学校在籍のお子さん合わせて62名の入級が認められました。

第2回 運営会議がありました。

11月12日（水）に佐渡ことば・こころの教室「第2回運営会議」が開かれました。今年度の中間報告と次年度の教室運営について審議が行われました。この度出たご意見は今後の教室運営に活かしていきます。



保護者の声

中学生保護者

一歩を踏み出す勇気

息子は、自分の思っている事を言葉で表現することが苦手です。行き場のない苦しい日が続いた時、それを受け止め、新しい環境へと背中を押して導いてくださったのが、この教室でした。勇気を出して進んだ今では、たくさんの人達に出会い、様々な経験を通して、交流が広がり続けています。

助けを求める事は、負ける事ではない。見えない何かと戦っている私を救っていただいた、この教室に感謝しています。ありがとうございました。



第2回学習会が開催されました

11月8日（土）に新潟県はまぐみ小児療育センター小児科医 福島愛様をお迎えし、「学習に困っている子への手立て—発達特性の視点から—」の学習会を行いました。

発達特性の捉え方と子ども達の困り感に応じた具体的な手立てについてご講演いただきました。子どもの発達について、ことばの発達を例に関わりから得られる力について教えていただきました。

また、苦手なところはとことん助けて、ほめて、短く終わるようにし、“やる”という習慣をつけられるようにしていくという学習に向かうための意欲付けにつながるお話もありました。

～感想～

- ・具体的な困り感に対する手立て、子どもと絆を深めるスキル、どれも参考になりました。
- ・「自分のことを大事に思えることが大事」という言葉を胸にできる支援をしていきたいと思いました。